

# 『光ある時に光の内を歩め』

～天御中主神示集Ⅱ～

## 【まえがき】

今の日本は、世紀末の様々な混乱の中にあります。大不況の波の内にあります。そして、非常にマイナスの想念が重くのしかかっています。

こうしたマイナスの想念を晴らし、希望の二十一世紀を拓くためには、どうしても光明の集合想念の結集が必要です。光明の集合想念を築いてゆくということこそが、新時代を切り拓く最高の鍵であるのです。今こそ、この日本に、光明の神風が吹かなくてはならない時期なのです。

天上世界の光明想念の根源にある神とは、天御中主神であります。幽の幽なる日本の根本神が、時代の大転換期にあたり、この日本を、光明の神風をもって救わんと、数多くの光を降ろされているのです。

この神示集の中には、神の光明想念が言魂として凝縮されています。その中には、どのような暗黒も晴らしてゆく最高最大最強の光明パワーが秘められているのです。

この書を朗読され、熟読されますと、心が十倍明るくなると言えるでしょう。そのような実感を抱かれた方が数多くいらっしゃるのです。

困難な時、苦難の時、悲しい時、挫折した時、こうした時には、天御中主神の御言葉は、限りない勇気と希望とエネルギーを無限に与えて下さいます。

また、本書の中には、あらゆる角度から、人生の叡智が綴られています。その叡智を理解され、実践されたならば、必ずや、新しき運命の開拓が出来ることと思います。

新生日本を導くすべてのリーダーの方々はもちろんのこと、すべての国民の皆様にご熟読いただきたいと切に願ってやみません。

読者の皆様方が、この光明の書を機縁として、より一層、幸福な人生を歩まれることを心より祈念いたします。